

安芸太田町田舎体験推進協議会特集

●ラフティング体験会の報告

6月16日、あいにくの小雨でしたが、太田川上流漁業協同組合や流域住民の方の理解と協力のもとで実施することができました。

参加者は、広島市から参加の親子や町内の高校生、1ターンで町内に移住してきた若者やラフティングに興味を持つ夫婦など、多種多様なメンバー構成でした。

太田川(主に加計地区)流域約3km強のコースを3艇に分かれ、2時間かけて下りました。非常に注目度が高く、多くの方々がラフティングを見ようとボートと一緒に車で移動したために、細い道で一時渋滞が起こるといふ珍現象が発生しました。



途中、浅瀬あり、急流あり、瀬場あり、川遊びありとバリエーションに富んでおり、参加者のアンケートでは全員が「面白かった、川から見る安芸太田町はすごく美しかった」などと高評価でした。

岸から見ていますと、なかなか前に進まない浅瀬ではさぞや面白くないのだろうと推察していましたが、参加者からはそういうところこそ力を合わせて前に進もうとさまざまなアクションをとることになり、乗り切ったときの達成感や、チームワークを醸成するのにとっても良い場面だったと答えていただきました。

他県の凄いと言われている急流の川だけがラフティングに適しているわけではないという思いを新たにしました。

順調に行っていたかと思えばいきなりの浅瀬で暗礁に乗り上げる。ルート取りを間違えると進行が停滞し、脱出するのに苦労する。停滞したとしてもみんなで力を合わせればやがて乗り切ることができる。教育旅行的に言えば太田川のラフティングは何だか「人生体験」のようです。

ラフティングマニアには物足りないかもしれませんが、浅瀬で四苦八苦しながら力を合わせて脱出することも含めて「教育旅行的素材」としては十分な効果があると調査結果を踏まえて確信した次第です。そして何より「ラフティング」を通じ、現在の太田川の本当の姿をしっかりとご理解いただいたのではないかと思います。

なお、体験会終了後に全員で河川清掃をし、一緒に昼食を食べました。地元の鮎をじっくり炭火で焼き、粗塩で仕上げ、参加者に振る舞いました。都会から来られた方にとっても好評で普段魚を食べない子どもが3匹も食べたことに驚きを隠せない保護者もおられました。これもまた、我々の志向する「人情田舎体験」の教育効果なのかもしれません。新たなものを作ること無く、ありのままの素材を「体験型教育旅行」として都会の子どもたちに提供したいと考えている我々にとっても大変嬉しいことでした。

ちなみに、このラフティングは全国の修学旅行生が最もやってみたい体験型教育旅行プログラムの第1位です。ラフティングが出来ることが今後の修学旅行誘致を進めるうえで大変重要なカギを握っているのです。

今回得た反省や、貴重な意見を踏まえ、来春の本格運用に向けて更なる研究を進めていきます。

最後に、皆さんの周りに「普通」に存在する文化・自然・生活様式・食事・言葉、そして「想い」などさまざまなものをより一層発見し、そして活用していきたいと考えています。

「これはっ!」と思われる素材がありましたら是非、安芸太田町田舎体験推進協議会(☎28-1800)へお知らせください。